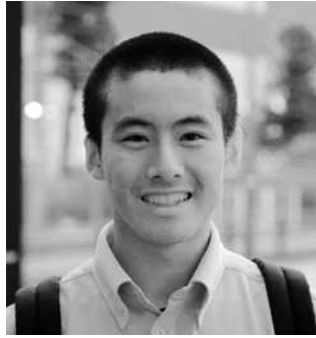


# 菊陽人りさーち



たなか なおと  
**田中南央斗さん**  
(18歳・ひばりヶ丘)

- 好きな教科 日本史
- 趣味 走ること
- 特技 野球
- 目標 大学で経済を学びたい
- お友達に伝えたいこと  
これからもよろしく



むらた ひかる  
**村田 輝成さん**  
(8歳・緑陽台)

- 好きな教科 体育
- 将来の夢 サッカー選手
- 今一番行きたいところ アメリカ、アフリカ
- やってみたいこと  
ボールを蹴って宇宙まで飛ばしてみたい
- お友達に伝えたいこと 一緒にゲームしよう

掲載を希望する人は電話、はがき、電子メールのいずれかで氏名、年齢、住所、連絡先(昼間)をお知らせください。掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人です。掲載が決まりましたら、ご連絡します。

■申し込み・問い合わせ  
〒869-1192 (住所不要)  
菊陽町役場総合政策課 ☎(232) 2112  
sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp



## 菊陽句会報

## きくよう文芸

母遺す寝巻まどふや夜の短 睡蓮花そこのけそのけ鯉の道 思い出のページをめくる朧かな 新緑やブルーシートの屋根哀し 余震中育むいのち蛙鳴く 炎昼や畑に動きし影一つ きずいせん熊本地震も何のその きらきらと若葉輝ふ東風日和 アマリリス地震禍の門に開き初む	財津 早雪 原野レイ子 カ 幸子 寺尾千代子 高橋 孝子 堀川 妙子 福田 貴子 佐藤 節 井上久美子	地震にも負けず育てよ子供の日 蛍舞ふ甘い水なし地震の里 祖の屋敷梅生り継ぐに幹洞ろ ベランダの鉢を間借りの青蛙 今生の心機一転更衣 吉見社の神の水湧く京波めり 増え増えて愛車に紫蘭揺れ触る 空手着を背負ひて走る猛暑かな 支援物資迂回の道や桐の花	宮川ユキエ 曾我 育代 曾我トモ子 紫藤 祥子 村上 朋子 木村 信子 吉田 幸子 米山るみ子 佐藤 澄世
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------

## 短歌会

朝どりの五時にスイートコーンかぎ始む一時間かけ四百本をも  
身のほどを知ればかりに天も地もうち震はして地震襲ひ来し  
一瞬に暗転したる暮らしかな空の青さの変わらぬ五月よ  
何事も無かりしごとく庭のバラ紅鮮やかに今朝開きたり  
ひなげしもすでに咲き終へ下草の濃き紫のかたばみの花  
覚えたる技を崩して新しき技を創らむ時は来にけり

- 梅田 國雄
- 河北 幸一
- 佐藤せい子
- 中村トシエ
- 山川 カヅ
- 松本 東亜

ゆたかな心をはぐくむ

# 人権のひろば

No.87

◆印からの文章は、先生のコメントです。  
●作者の学年は作成時の昨年度の在籍学年です。

人権教育・啓発課 ☎(232)2113

人権啓発標語 「一人一人に個性があって

みんな同じ命の重み」 武蔵ヶ丘北小学校 5年 中村 心夢



これからも差別をなくしていきたい

「少しでも差別を減らすために」  
武蔵ヶ丘中学校 2年 栗原 祐人

僕は2年生の人権学習で、差別は思い込みや偏見、勘違いなど、互いを認め合えない部分から生まれてくるとあらためて思いました。僕も人を間違った見方を見て傷ついたり、逆に傷つけられたりしたことがあります。また、他の人たちも傷つけ、傷つけられていると思います。でも、傷つけられていることに対して「かわいそうだな」など、同情や上から目線で目を向けると、それは差別をしているのと同じことになります。大事なものは、そのような差別がどうしたらなくなるのかを考えることだと思います。「もし自分が同じように差別を受けたら...」。そんなふうには差別を受けている側になって考えてみれば、自然とその人を傷つけ

たり差別したりしないはずですが。また、考えや価値観の違いから「あの人は〇だから」などと言って、仲間はずれにしたり見下したりするのは、とてもおかしなことだと思います。「自分と意見や考えが違うから」というのは、正しい判断ではなくただの自分勝手だと思っています。人間は一人一人違うのだから、思考や意見が違ってくるのは当たり前です。その違いを認め合えないから差別が起こるのだと思います。まずは、互いを認め合い、そして互いを尊重する。このことが差別をなくす第一歩だと思います。それでも、簡単には差別はなくならないでしょう。でも、そこで考え、行動することが大切だと思います。また、世の中を変えるなんて、そんな大きなことは自分には無理だと思いません。しかし、何もできないはずはありません。まずは自分の身の回りを直し、考え、行動していきたいです。

生徒たちは「紫雲丸事件」「井上家の裁判」「沖縄平和学習」「水平社創立の闘い」の学習を通して学んだ、今の自分の正直な思いを、自分たちの生活と重ねてつづりました。これまでの経験をプラスに変え、周囲にも反差別の働きかけをしてくれることを期待しています。

## 人権擁護委員はまちの相談パートナー



人権擁護委員は、法務大臣から委嘱された民間の人で、全国で約1万4千人が配置されています。現在、菊陽町には7人の人権擁護委員がいます。人権擁護委員は、法務局と連携して地域の皆さんから人権相談を受け、問題の解決の手伝いをしていきます。その他、人権侵害の被害者を救済したり、地域の皆さんに人権についての啓発活動を行ったりしています。

いじめや差別、虐待など一人で悩まずにご相談ください。相談は無料で秘密は固く守られます。

熊本地方法務局阿蘇大津支局

☎(293)2272